

## 鶴岡市社会福祉協議会 就労準備支援事業 したくホーム

### 1. 基本情報

|                        |   |
|------------------------|---|
| ①自治体・団体名               | 山形県・鶴岡市社会福祉協議会  |
| ②住所等                   | 〒997-0028 山形県鶴岡市山王町 13 番 36 号   |
| ③圏域の人口、高齢化率            | 人口：114,378 人（令和8年2月現在） 高齢化率：37.1%（令和7年3月末）  |
| ④生活困窮者自立支援法に基づく事業の実施状況 | 鶴岡地域生活自立支援センターとして、自立相談支援事業と就労準備支援事業の委託を受けている。   |
| ⑤主な事業・活動（④以外）          | 住民福祉活動への支援、地域福祉の担い手の発掘・養成<br>地域包括支援センターの運営<br>介護保険サービス、障害福祉サービスの実施<br>保育園、子育て支援センター、児童館等の運営<br>生活福祉金貸付事業の実施<br>ふれあい福祉相談の実施<br>成年後見センター、日常生活自立支援事業の実施<br>生活困窮者自立相談支援事業、就労準備支援事業の実施<br>ボランティアセンター運営事業の実施<br>3.11 東日本大震災による避難者への支援 等 |

### 2. 取り組みの経緯・背景

- 2015年 鶴岡地域生活自立支援センター（市委託）開設  
生活困窮者自立支援制度の開始と同時に、市の委託によりセンターを開設した。就労準備支援事業対象者のような相談が寄せられた。
- 2019年 就労準備支援事業開始  
4月から事業開始に向けて始動し、6月に商店街の一室を借りて事業を開始した。（就労準備支援事業「したくホーム」）  
自立支援センターとして自立相談支援事業と就労準備支援事業を受託することで、それぞれの担当者が連携しながら一緒に支援できている。商店街のなかでやっていることのメリットとして、商店等から声をかけてもらえる。  
「したくホーム」の名称は、「身支度」や「身綺麗にする」という意味の「したく」に由来しており、社会に出る前の家のような存在（ホーム）でありたいと考えている。

### 3. 取り組み概要・実施体制

- 市の中心部の商店街にあるという強みを活かす  
「したくホーム」は鶴岡銀座通り商店街の中に位置している。商店街はシャッター街化が進んでいるが、お祭りやイベントなどの際には人が集まる場となっている。

令和7年度就労支援員・就労準備支援事業支援員初任者研修  
「就労支援の実際～多様な働き方を実現する就労支援のあり方を学ぶ」

商店街での活動を大切にしようと考え、商店街のごみ拾いや広場の除草を「したくホーム」の利用者や職員がボランティアで手伝ったりしているなかで、徐々に関係性が作られてきた。イベントに出店して、くるみボタンマグネットや利用者の趣味を活かした編みぐるみキーホルダーなど、「したくホーム」で制作したクラフト小物を販売させてもらったり、イベントの記念品作成を依頼されて手伝うなど、商店街との関わりの中で、社会参加や販売の体験等の機会をつくることのできるようになった。

■プログラム～自分で選んで決めることを重視

「したくホーム」では、利用者が自分で選んで決めることを大切にしている。1年間の期間の中でプログラムを自分で選んで参加し、本人の希望に沿った就労体験先を提案する。

活動時間は、午前は10:00～11:30、午後は13:30～15:00となっており、ボランティア活動（商店街のごみ拾いや広場の清掃、「寒だらまつり」ののぼり立て等）や調理実習、パソコン演習、作業訓練（内職作業）、グループワーク（働くことについての意見交換など）のプログラムを実施している。グループでの活動に慣れてきたところを見計らって個別に就労体験へのチャレンジを提案する。

■就労体験先の開拓

令和5年に国のコンサル事業による助言を受け、企業開拓を実施。「就労体験受け入れ企業募集のご案内」の登録用紙を作成し、登録した企業は社協のHPに掲載した。企業開拓にあたっては、就労体験を受け入れる側が不安なことは何かを考え、様々な疑問や不安に対して体験例などを通じて答えられるように準備していった。

労働局、ハローワーク主催の就職面談会で就労体験受け入れ企業募集のチラシを配布したところ、ホテル会社から連絡があり、就労体験につながった。また、社協のボランティアセンターが地域貢献の相談を受けて連携していたコンビニに就労体験の話を持ち掛け、夏の海水浴で忙しくなる時期に品出しや清掃を中心に就労体験を受け入れてもらうことができた。その他にも理解のある企業・法人の協力によって就労体験先を確保している。

## 4. 成果や課題、今後の展開

「したくホーム」でのプログラムや就労体験を通じて、これまでなかなか社会参加の一步が踏み出せなかったり、継続就労に結びつかなかった人たちが少しずつステップアップしながら働けるようになった事例が生まれている。

一人ひとりのできることを見極めて仕事を任せてくれたり、ゆっくり練習できる環境をつくってくれたりするなど、理解ある社長やオーナーの協力によることも大きい。

一方で、さまざまな企業や商店を回って説明を重ねても、企業の側も人手不足で面倒を見れないと言われるなど、企業開拓に結びつかないことも多い。その人にあった働き方を提案し受け入れてもらうためには、さらに企業等との信頼関係を深めていくことが重要と感じている。